

収録日：2025 年 3 月 28 日

直滑降ストリーム特別企画「県議と知事の紅茶懇談」は、群馬県議会議員をお招きし、親しみやすく身近なテーマでお話をするシリーズです。

それぞれの県議の人柄や趣味の話など、幅広く話をしています。議会でのやりとりだけではなかなか見えない部分も、お伝えできると考えています。

第3回目のゲストは、リベラル群馬の鈴木敦子県議です。番組では、学生時代に訪れたシリアや、イギリスへの留学、そして新聞記者として働いていた頃の出来事などについてお話を伺いました。鈴木県議の考え方やスタイルがどのように築かれてきたのか、その一端が伝わってくる内容となっています。



第3回 鈴木 敦子 県議（リベラル群馬）

山本一太群馬県知事（以下、知事）
直滑降ストリーム特別企画「県議と知事の紅茶懇談」をお届けします。この番組は、県議の方と、政策を語り合うというよりは、多くの県民の皆さんが「県議ってどういう人だろう」という気持ちを持っているので、県議の人間性や人柄、趣味などを掘り下げていこうという企画です。

今日は3回目のゲストとして、鈴木敦子県議にお越しいただきました。よろしくお願いします。

鈴木敦子県議（以下、県議） よろしくお願ひします。

🍵プロフィール

知事 まず、鈴木県議のプロフィールをご紹介させていただきます。

選挙区は高崎市、所属会派はリベラル群馬、当選回数は2回です。出身は奈良県で、趣味は古墳巡り、音楽鑑賞、観劇、スポーツ観戦ということです。

🍵生い立ち
知事 出身が奈良県ということで、どんな子ども時代を過ごされたんでしょうか。

県議 何もエピソードがないくらい普通なんですよ。

ただ、私は生まれたときに男の子と思われたらしくて。当時は、割と男の子は水色で女の子がピンクの服を着ていたんですが、親はどっちかわからないと思っていたみたいで、私はずっと黄色なんです。そういうところは今に繋

がっているのかもしれないです。あまり女の子らしい感じとか型にはまった感じがなくて、好きなことをやらせてもらいました。

知事 のびのび育った感じなんですね。

子どもの頃はずっと奈良で、大学は奈良女子大だったんですよね。奈良女子大って、国立の女子大学として本当に歴史があります。どんな学校でしたか。

県議 すごく人数が少ないんですよ。ゼミとかも少人数で、先生との距離もすごく近いし、友達同士も本当にアットホームな感じでしたね。

大学時代にいろいろな人や考え方と出会ったのは、その後の仕事の部分ですごく影響していますね。

知事 大学時代の写真を持ってきたにいただいているということで、(写真を見ながら)これは海外の遺跡ですよ。

県議 シリアのパルミラ遺跡です。奈良県は考古学が盛んなので、当時奈良県がお金を出してパルミラ遺跡を修復したんですよ。その関係で、奈良県とシリアの青少年の交流事業があったので、応募して行った時の写真です。

知事 パルミラ遺跡は素晴らしいですよ。(写真を見ながら)こちらの写真は。

県議 これはイギリスのロンドンに留学していた時です。シェアハウスで、アメリカ人3人とノルウェー人1人、私を含めた日本人2人で生活していました。

少し堅い話になるんですが、初

日にシェアハウスに行ったときに、たまたまBBCのドキュメンタリーで太平洋戦争の話をしていたんですね。原爆が落ちる映像とか、日本の特攻隊の話とかを見ていたら、そのアメリカの人たちが戦争の話を何も知らなかったんですよ。「日本でこんなことがあったの？」みたいな。それはすごくカルチャーショックでした。戦争や歴史は、本当に多面的で、いろいろな見方があるし、立ち位置によって全く感想も印象も違うんだなっていうのは、すごく原風景になっています。

知事 ロンドンには何年くらいいたんですか。

県議 1年ですね。

知事 1年いて、その後は奈良女子大ということですね。奈良女子大には、前から注目しているというか、印象的だったんです。

県議 高校までは共学だったので、良くも悪くも意識していなかったんですが、女性の自立とか女性のエンパワーメントみたいなものは、ここで叩き込まれたのかなあとと思っています。

知事 大学を卒業されてから、ジャーナリストを目指してNHKに入られたんですかね。

県議 最初はNHKの派遣社員ですね。

知事 NHKの派遣社員でいろいろな勉強をされた後に、毎日新聞社に入られたということですが、最初からジャーナリズムに興味があったんですか。

県議 そうですね。マスコミで働きたいというのがずっとありま

した。

先ほどのシリアの話に関係しているんですが、シリアに行ったときに、毎日新聞社奈良支局の女性記者が同行取材されていて、その方がすごくかっこよかったんです。そんなこともあって、新聞をやるなら毎日新聞社だと思いました。

知事 毎日新聞社に入られて、支局はどちらでしたか。

県議 最初は前橋支局に6年いました。1年間育休を取ったので、勤務としては5年間いて、そのあと東京本社に行きました。

知事 鈴木さんは県議として、一貫して社会の弱い立場にある人たちに光を当てようという強い哲学があるじゃないですか。そういう思いは、どこで育まれたんですか。

県議 いろいろあるんですが、ロンドンにいた時に、アメリカで同時多発テロが起きて、世の中の空気が一変していくというのを肌で感じました。その1年前にシリアに行っていたので、シリアの友達にメールを送ったら、やっぱりすごく大変だと。徴兵に行かなきゃ、国境警備に行かなきゃ、みたいなメールが来ていたんです。そういった現場も見ていて、平和に対する気持ちもあって。

記者になってからは、子どもの虐待事件とか、そういうものがあったので、声にならない人たちの声を拾い上げないといけないという気持ちがありました。

知事 その思いが鈴木さんをジャーナリズムに向かわせ、さらに

は今に繋がっているということですね。

県議会議員選挙に出ようと思ったきっかけは何ですか。

県議 私はずっとマスコミにいるつもりだったので、まさかこんな世界に来るなんて、というのは今でも思っています。

ただ、記者として子どもの虐待などを取材するようになって、これは政治の力で変えるしかない、行政の力で変えるしかないなと思いながら、記者を16年やってきました。でも、虐待は減るどころか増えているし、子どもたちの権利も十分守られていないんじゃないかと思っていたんです。そして、自分が記者1年目のときに起きた事件と同じような事件が16年目のときに起きたので、ちょっとギアを変えなきゃ、違うステージでやろうと思ったんです。

知事 今の県議としての活動に繋がっているということがよくわかりました。

🍵 趣味

知事 趣味など、仕事以外で好きなことがあったらぜひ教えてください。

県議 これというのがあまりないんですが、古墳巡りとか音楽鑑賞とかは好きです。

私自身はそんなに音楽は詳しくないので、いつも友達に「こういうのがあるけど行かない？」って誘ってもらって行くことが多いです。

知事 古墳巡りとかクラシックが好きだということですが、群馬

県はいいですね。古墳といえば群馬だし、群響があるし。

県議 群響はありがたいですね。古墳でいうと、奈良の古墳と群馬の古墳っていうのは非常に繋がりが深いんです。

知事 群馬県も古代にはそれなりに文化の中心地だったということの証明ですね。

あとはドビュッシーが好きだという情報を耳にしました。

県議 ドビュッシーと、あと一番好きなのがムソルグスキーの『展覧会の絵』です。

知事 テレビの宣伝とかでも出てくるあの有名な曲ですね。

私はクラシックに詳しくないんですが、ドビュッシーはピアノのナンバーとして本当に美しいなと思っています。

🍵 好きなエンタメ

知事 マンガも意外とお好きだと聞いたんですが。

県議 ちょうど私が中学生のときにスラムダンクがすごく流行っていたので、その影響を受けてバスケット部に入りました。バスケット部は中学だけなんですけど。

知事 意外とミーハーだった？

県議 そうなんです(笑)。それでスラムダンクは全巻揃えていました。

知事 映画も見ましたか。

県議 映画は見えてないんです。

知事 あれはおすすめです。本当に良いのでぜひご覧になってください。

あと、育児の時に励まされたマンガがあるとお聞きしました。

県議 『ママはテンパリスト』というマンガです。赤ちゃんが生まれてすぐ、こんなにしんどいんだっていう時に、友達に「このマンガいいよ」って教えてもらったんです。それから夢中になってハマりました。

知事 これは育児マンガとしてはすごくヒットしたんですね。全部読んでいないけど、絵がとってもかわいいですね。

他に好きなものはありますか。

県議 スポーツを見るのが好きで、特にラグビーが好きです。オーケストラもラグビーもいろいろな人が活躍するというか、それぞれの持ち味が相乗効果を生むところがすごくいいなと思って。

知事 「One for All」みたいなところが、オーケストラも似ていますよね。鈴木さんはみんながそれぞれのパートで力を合わせて作り出すものが好きということですね。

県議 簡単に言うと、多様性というか、いろいろな人が世の中にいるっていう、ごちゃまぜの感じが好きですね。

🍵 県議としてやりたいこと

知事 今、県議になって2期目ですが、県議になってこれだけはやれたらいいなというものがあたらお話を伺えればと思います。

県議 1つは知事もやってくださっている「インクルーシブ」ですね。インクルーシブ教育とかも含めて、世の中がインクルーシブになればいいなと思っています。

具体的に言うと、例えば自分が

年をとった時に、お年寄りだけの施設とか認知症の人だけの施設というのではなくて、幅広い世代の人とか、障害者も子どもも高齢者も同じようにひとつ屋根の下で過ごせるような、そういう福祉の施設があったらいいなと思っています。

あとは、子どもの虐待を減らしていくとか、予防していくということを、力を入れてやりたいです。

知事 今の話を聞くと、鈴木さんのこれまでの県議としての発言とか、ジャーナリストだった時のいろいろな記事の中身にも通ずるところがあるなと思います。

今、県議として忙しい毎日を送っておられると思うんですが、以前は琴をやっておられたと聞きました。

県議 そうですね、またやりたいなと思ってはいるんです。ちょっと子どもの時にやっていたので。

知事 それはぜひやっていただきたいですよ。人生100年時代で、何かを始めるのに遅すぎることはないと思っています。私も67歳でストリートライブとかをやっているんで、ぜひ琴はやっていただきたいと思います。

🍷 群馬県の魅力

知事 群馬県の魅力についても語っていただきたいと思います。

鈴木さんは奈良県のご出身で、新聞記者として前橋に来られたということですが、鈴木さんから見た群馬県の魅力は何ですか。

県議 群馬の皆さんって、群馬愛

が強いんですよね。「グンマー」という言い方もありますが、「グンマー」っていいなと思っていて。「上毛かるた」もそうですし、仲間意識というか、皆さんの郷土に対する誇りというのは、大きな魅力だと思っています。

あとは、首都圏に近いということです。私は東京に5年間通勤していたので、首都圏に電車通勤できる、東京の郊外に住むのと同じぐらいの時間で、電車が空いていて快適というのは、非常におすすめですね。

知事 気候はどうですか。「晴れの日が多いのが良い」という人も結構います。

県議 群馬は青空が綺麗なんですよ。「雲一つない快晴」って、子どものときの感覚だと例え話だと思っていたんです。群馬に来て、本当に雲一つない快晴の日がこんなにあるんだっていうことに感動しました。

知事 今の鈴木さんのお話はすごく共感できます。知事になってよくトップセールスとかで東京に行くじゃないですか。戻ってきて高崎駅を降りた時に思うのは「群馬県は空が広い！」。

県議 本当にそのとおりですね。

🍷 群馬県の魅力 30秒PR

知事 いつも「群馬県 30秒PR」をやってもらっているのですが、先ほどの話と被っても構いませんのでお願いします。

県議 1つ目は、空が綺麗なこと。青空がとっても綺麗です。家から浅間山が見えるんですが、白雪

が青空にとっても映えます。

2つ目は、文化芸術ですね。群響もありますし、プロスポーツチームもあって、文化・芸術・スポーツが充実していること。

それから、東京に近い、首都圏に近いというのは、大きな魅力だと思っています。温泉もたくさんあって、本当にいいところです。住むなら群馬です。おすすめです。

知事 素晴らしい。完璧にいろいろ入れていただきました。

県議 しかも食べ物が美味しいですよ。

知事 群馬県の食べ物、美味しいでしょ。奈良県も美味しいかもしれないけど。

県議 野菜がやっぱり美味しいんですよ。

知事 野菜は群馬県の強みなんですよ。もう鈴木敦子県議はすっかり「グンマー」ですから。

県議 「グンマー」です。

知事 今日いろいろお話を聞いて、すごく身近になったし、見ていただいている方にも鈴木敦子県議の人となりとか、スタイルの源泉みたいなものを感じていただけたと思っています。

県議会は二元民主制で、切磋琢磨して、いろいろとご批判をいただくこともあると思うんですが、力を合わせて群馬県を良くできればと思います。今日はありがとうございました。

県議 どうもありがとうございました。